



Not So Different

「私も彼らと同じ境遇だった」

オバマ元大統領の 知られざる青少年支援活動

強い志と希望に満ちたオバマ大統領の演説とその経歴からは、自信にあふれ、信念に従って真っすぐに突き進んできたエリートという印象を受ける。だが、オバマ氏は父親不在の複雑な家庭環境で育ち、幼少期から10代の少年期までを迷いと苦悩の中で過ごしたという。彼は大統領時代にシカゴの有色人種の青少年支援サークルに参加し、高校生たちに出会った。今回、そのときと同じ高校を8年ぶりに訪れ、青年になった彼らと再会。その成長を喜び、自らの青少年時代について率直に語った。



番組ホスト

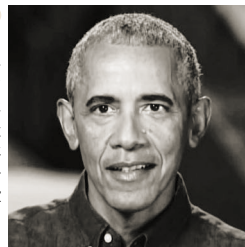
アンダーソン・クーバー

1992年、教育向けニュース・チャンネル、Channel Oneでキャリアをスタート。'95年、28歳のとき、最年少特派員としてABCと契約。その後、同局の「ワールド・ニュース・ナウ」などの看板番組のアンカーを務める。2001年12月、CNNに入局。'05年、ピープル誌が選ぶ「セクシーで頭の切れる男性」の1人に選ばれる。'20年、男児の父となる。1967年生まれ、ニューヨーク育ち。

ゲスト

バラク・オバマ

アメリカ合衆国第44代大統領（2009年～'17年）。伊利ノイ州議会上院議員、伊利ノイ州選出連邦上院議員などを歴任後、2008年にアフリカ系アメリカ人として初めて米国大統領に選出、2期8年務める。'09年にノーベル平和賞受賞。'14年にマイノリティーの少年を支援し導くMy Brother's Keeperを設立。1961年ハワイ州生まれ。



71 大統領時代から支援してきた青年たちと再会

After leaving the White House, President Obama mostly stayed out of politics, though last year, he did campaign for President Biden.

And Mr. Obama has continued his work with a program he launched while he was in the White House, called My Brother's Keeper. It's now part of the Obama Foundation.

Its mission is to provide support for what it calls "pathways of opportunity" to young men of color. It's a deeply personal mission for President Obama, who grew up hardly knowing his own father and who, by his own account, didn't find his way until his late teens.

We dropped in on the former president in Chicago, in a high school where he was visiting with a group of young men who had been part of My Brother's Keeper, to talk about their lives and the challenges they face.

stay out of:

～に関わらないでいる、

～を避けている

campaign for:

～を応援する選挙運動をする

launch:

～を開始する、始める

My Brother's Keeper:

▶p.114コラム参照。

be part of:

①～の一部である ②～に

一枚かむ、参加している

the Obama Foundation:

オバマ財団

provide A to B:

AをBに提供する、与える

pathway:

(目標への)道、過程

opportunity:

機会、チャンス

man of color:

有色人種の男性

hardly:

ほとんど～ない

by one's own account:

～自身の説明によると、本人の話では

drop in on:

～のところへ立ち寄り、ふらりと訪ねる

visit with:

(人)を訪ねる、訪ねてお

しゃべりする

challenge:

困難、課題

face:

(困難などに)直面する

オバマ元大統領は、ホワイトハウスを去った後、ほとんど政治から遠ざかっていました。ただ昨年、バイデン大統領の選挙戦の応援はしましたが。

そして、オバマ氏は、大統領時代に立ち上げた「マイ・ブラザーズ・キーパー」という活動を続けてきました。現在では、オバマ財団の活動の1つです。

その使命は、有色人種の青少年を支援し、いわく「機会への道筋」を彼らに提供することです。それは、オバマ元大統領にとって個人的に思い入れの深い使命です。彼自身も父親をほとんど知らずに育ち、本人の話では、10代後半になるまで進むべき道がわからなかった、とのことです。

私たちはシカゴで、ある高校を訪問中の元大統領を訪ねました。大統領はそこで、「マイ・ブラザーズ・キーパー」(の立ち上げ)に参加してくれた若者たちと再会し、彼らの生活や彼らが直面している困難について話しました。